

令和7年度入学 一般選抜後期日程 外国語(英語) 講評

第1問

【出題のねらい】

専門的な語彙が含まれる文章の大意を掴んだ上で、文の構造、文法、語彙を理解し、内容を把握する力をみることをねらいとした。

【講評】

全体の正答率は4割程度であった。単語をただ繋げて、自身の知識から解答するのではなく、文の前後関係を的確に読み取り、内容に沿って考え、英文を読み込むことが大切である。日本語で解答するものは、日本語として意味がきちんと成り立っているのかを、最後に確認する必要がある。

問1

基本的な文法、イディオム、前置詞、接続詞を理解し、前後の文章を踏まえて、選択肢の中から適切なものを選ぶことが求められる。

問2

正答率が低かった。特に carbon について問われていることを理解していない解答が多かった。文章全体の構造を見極めることが大事である。

問3

炭素蓄積能力が失われる、という箇所を含んだ解答が少なかった。本文の第一段落に sequestration の説明があるにも関わらず、解答する際に見落としていたことが原因だと思われる。

問4

“This process is called...”とあるため、直前の文の内容を理解し、解答につなげることが必要だった。前段落の内容を受けて、“carbon dioxide”を carbon で捉えている解答が多くみられた。“... and convert it to plant parts...”について、convert の意味を捉えられず、「葉、茎、根に二酸化炭素を送る」という解釈になっている解答が散見された。単語の意味をやみくもにつなぎあわせるのではなく、文の構造(主語・動詞・目的語など)を確認しながら、丁寧に理解することが必要である。

問 5

下線部分のすぐ下を書いているだけで、全体の内容をきちんと捉えていない解答が散見された。答えは、必ずしも近くにあるわけではない。沿岸湿地に酸素がほとんどないため、具体的にどうなのかにに関してきちんと読み込む必要があった。Decomposition や organism の意味を読み取れていない受験者も多くいた。Coastal を石油と解釈している受験者も散見された。内容をきちんと読み込み、日本語でまとめる練習をしておくことが望まれる。

第 2 問

【出題のねらい】

文章を読み、内容を正確に把握する力をみることをねらいとした。

【講評】

全体の正答率は 6 割程度であった。長文全体の流れを掴みながらも、細かい箇所まで読み解くことが求められる。

第 3 問

【出題のねらい】

会話文を読み、それぞれの状況に応じて適切な英語を使用し、会話を表現することができるかをみることをねらいとした。前後の会話だけでなく、全体の会話を捉え、それを踏まえて、最もふさわしい表現をすることができるかを問うた。

【講評】

全体として 6 割程度の正答率であった。

問 1

最初の①は、苗字を“last name”ではなく“first name”としている解答が多かった。②では、spell(動詞)：つづる、spelling(名詞)：スペリング、の使い方を混同している解答が多くあった。和製英語からの誤用に気を付けてほしい。

問 2

“how long”が解答の①では、「how long time」や「how many time(s)」などの間違いが多かった。また、②で共通して見られた解答に“What food do you want to eat”があった。ここでの eat は、すでに食べ物を食べていることを意味するので、“food”は不要である。food は冗長で、ぎこちなく聞こえる。④においては、“What kind of pizza”が模範解答であった

が、“taste” や “flavor” といった単語をよく使っていた。具体的には、ピザのトッピングに関しては、そのようには言わず、“kind” と言った方が自然である。

第4問

【出題のねらい】

英語の会話文を読み、会話の流れを掴む力をみることをねらいとした。その上で、流れにふさわしい会話を選べるかを問うた。

【講評】

全体の正答率は7割程度で、大変よくできていた。多くの会話文を読むことで話の流れを掴む練習をすることが望ましい。特に、会話で多用される決まり文句やイディオムなどを覚えておくことや、日常生活に関する話題に関して、英会話で表現する練習をしておくことが、会話表現を適切に使用する上で役立つだろう。

第5問

【出題のねらい】

本問題は、提示されている条件に最低限従い、題目に関して賛成か反対か、自分の意見を英語で論理的に述べる力をみることをねらいとした。

【講評】

全体の正答率は5割程度であった。特に“danger”のスペルミスが多かった。また、文章の中で自身の論点と理由は論理的につながっていなければならない。「動物を絶滅させれば地球温暖化が進む」というような書き方は、両者の関連性が明確でないため認められない。話題の語を使うことで点数がもらえるというわけではない。さらに、多くの受験者が“I’m disagree”と書いていたが、これは文法的に間違っている。